

A scenic landscape featuring a large tree in the foreground, a forest, a pond, and mountains in the background. The text is overlaid on the image.

レンジャーになりたい

令和3年度入省予定  
環境省総合職自然系 内定者の声

# はじめに

この度は、令和2年度版『内定者の声』をご覧頂きありがとうございます。

本冊子は、環境省自然系職員を志望する方々を主な対象として、令和3年度入省予定の総合職自然系内定者の体験談を基にまとめたものです。国家公務員試験や官庁訪問に関する日程や対策方法等について、内定者の視点から詳細に記載しています。環境省にOB・OGがいない方、説明会等の中々参加出来ない方など、採用等に関する情報を手に入れにくい方々にも、公平に有益な情報をご提供出来ればと思います。

新型コロナウイルスの影響で、例年以上にアクティブに情報収集ができない状況の中で、本冊子をご覧頂きました全ての方々が、この『内定者の声』を通して、環境省へのご理解やご興味を深め、進路選択の一助となることができれば幸いです。

(令和2年度 環境省総合職自然系 内定者一同)

## ※その他情報について

各職種の詳しい業務内容やお知らせ、試験などに関する最新の情報については、環境省および人事院のホームページをご覧ください。

『環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/> 』

『環境省総合職自然系ページ [http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat\\_g3/index.html](http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/index.html) 』

『環境省レンジャーの仕事

[http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger\\_web.pdf](http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger_web.pdf) 』

『人事院国家公務員試験採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html> 』

# 目次

基礎情報 .....	3
内定者の概要 .....	6
内定者からの情報.....	7
A さん.....	7
B さん.....	10
C さん.....	12
D さん .....	15
E さん.....	18
F さん.....	21
G さん .....	24
H さん .....	27
受験で使った参考書一覧 .....	30
内定者へのアンケート .....	31

# 基礎情報

\* 令和 2 年度 国家公務員総合職試験および内定までの流れ \*

令和 3 年度の日程は国家公務員採用情報 NAVI をご確認ください。

( <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html> )

日程	内容	備考
2/3	受験案内の HP 掲載開始日	
3/27~4/6	申込受付期間 (インターネット)	
6/23~6/26	事前面談会第 1 ターム	※国家公務員試験延期に伴う令和 2 年度限りのものです。
6/29~7/2	事前面談会第 2 ターム	
7/5	第一次試験日 午前：専門試験 (多肢選択式) 午後：基礎能力試験 (多肢選択式)	服装自由 翌日 HP に解答掲載
7/17	第一次試験合格者発表	HP に掲載、合格通知書 (二次試験の日時・会場の通知)
7/20~7/22	官庁訪問 第 1 クール	※Web 面接
7/26	第二次試験 (筆記試験) 専門試験 (記述式、院卒のみ) 政策論文※ (大卒のみ)	服装自由
※政策論文試験では課題文と資料が与えられ、小論文形式で解答します。過去問請求が可能です。		
7/28~7/30	官庁訪問 第 2 クール	スーツ (クールビズ推奨)
8/3~8/11	第二次試験 (人物試験※)	日時変更は原則不可 提出物 (外部英語試験の証明書類、面接カードなど) に注意! スーツ (クールビズ推奨)
※人事院が実施する面接官 3 名対受験生 1 名の面接で、時間は一人 20 分程度です。基本的に、当日提出する面接カードに沿った内容を質問されます。		
8/21	最終合格者発表	HP に掲載、合格通知書
8/21	内々定解禁	

**(注意!!) 令和 2 年度の試験日程は延期が重なったため、大変特殊です!**

**第二次試験では、大卒者試験で例年行われていた記述式専門試験が中止になり、院卒者試験では政策課題討議試験が中止になるなどの変更がありました。試験日程や試験内容について**

では別年度を参考にすることを強く推奨します！

また、令和3年度の試験日程については、必ず自身で確認してください！

(国家公務員採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html> )

#### \* 環境省のお仕事について \*

環境省の職員は、事務系、理工系、自然系の3つに分かれています。

自然系職員（通称レンジャー）の業務内容等については、環境省総合職自然系ページ上に掲載されているパンフレットをご覧ください（※下記リンク参照）。

(環境省レンジャーの仕事 [http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger\\_web.pdf](http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger_web.pdf) )

#### \* 試験区分 \*

環境省総合職自然系は、森林・自然環境区分もしくは化学・生物・薬学区分から採用されます。令和3年度入省予定者8名のうち、全員が森林・自然環境区分でした。しかし例年は化学・生物・薬学区分からも採用されているようです。試験区分による入省後の業務内容に違いはありません。

試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用試験受験案内 <http://www.jinji-shiken.go.jp/html/AnkJknAnnList.html>)

#### \* 官庁訪問 \*

##### ◆ 官庁訪問とは？

官庁訪問とは、各省庁に採用してもらうためのいわゆる『採用面接』です。

人物試験と同様に、面接カードを提出したうえで面接を行います。人事院の実施する総合職試験に最終合格すると、3年間有効の合格者名簿に名前が載ることになりますが、合格＝採用ではありません。

官庁訪問こそ志望省庁から採用されるための最後にして最大の難関とも言えます。

総合職の官庁訪問は、訪問開始以降、第1クール～第5クールまでの日程（クール制）で行われ、その後、内々定解禁という流れになります。原則として1クールにつき1つの省庁への訪問は1回で、通過すれば次のクールの官庁訪問も行うことができます。

令和2年度の官庁訪問の詳細については、下記をご参照ください。

(総合職試験（院卒・大卒）採用までの流れ（令和2年度）

[https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo\\_sougou02.html](https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo_sougou02.html))

官庁訪問では複数の志望省庁を訪問することになると思います。通常は志望度の高い省庁から順に訪問しますが、環境省自然系では2日日以降に訪問したからといって採用されないということはありません。官庁訪問の日程やルール等については、毎年人事院より発表

されますが、次のクールの訪問日が省庁側から指定される場合と、こちらが選べる場合があるなど、各省庁によって具体的な進め方が異なります。可能であれば志望する省庁のOB・OG等に尋ねて、どの省庁を何日目に訪問するか事前に計画しておきましょう。また、遠方の方はかなり長期戦(約2週間)になるため、ホテルや飛行機の手配などを早めに行うことをおすすめします。

◆ 環境省の官庁訪問について

※下記の内容は全て令和2年度の情報です。最新の情報や詳細については人事院や環境省の採用ホームページ、あるいは必要に応じて採用担当者に確認してください。

令和2年度の環境省総合職自然系の官庁訪問は個人面接のみ、第1クールと第2クールの計2日間実施されました。第1クールの官庁訪問はWebによる面接が中心で、事前の予約が必要です。

※例年は、第1クールは初日のみ先着順、2日目以降は事前予約が必要でした。定員は一日に20名程度。面接順は採用の可否に全く影響しません。

# 内定者の概要

内定者の専攻、試験選択科目、趣味等の基本情報を表にまとめました。次章を読む際のインデックスとしてご活用ください。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん
卒業区分	院卒	院卒	院卒	院卒	院卒	院卒	院卒	院卒
専攻	景観生態学	森林科学	植物生態学	生物多様性・自然保護	動物生態学	森林科学	野生動物学	生態遺伝学
試験区分	森林・自然環境	森林・自然環境	森林・自然環境	森林・自然環境	森林・自然環境	森林・自然環境	森林・自然環境	森林・自然環境
一次試験 選択科目	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学	森林環境科学
	造園計画（自然公園）	造園計画（自然公園）	森林資源科学	森林資源科学	森林資源科学	森林資源科学	森林資源科学	森林資源科学
	造園計画（都市計画）	造園計画（都市計画）	森林生物生産科学	造園計画（自然公園）	造園計画（自然公園）	造園計画（自然公園）	造園計画（自然公園）	造園計画（自然公園）
二次試験 選択科目	自然環境・公園緑地に 関する基礎	自然環境・公園緑地に 関する基礎	森林科学に関する基礎	自然環境・公園緑地に 関する基礎	森林科学に関する基礎	森林科学に関する基礎	自然環境・公園緑地 に関する基礎	自然環境・公園緑地 に関する基礎
学生時代に 打ち込んだ事	ラーメン店でのバイト 研究活動	陸上競技	セバタクロー	語学	短期留学 課外活動	サークル活動	全国の農家訪問	研究 サークル活動 旅行
趣味	バスケ	読書	登山	登山	読書	登山・沢登り	動物園、水族館巡り	旅行
	スポーツ観戦	ランニング	ドライブ	旅行	フルート演奏	生物観察		写真撮影
	コーヒー		ウクレレ	芸術全般	散歩	旅行 写真撮影		ピアノ デザイン
好きな 動植物	トンボ	ギンヨウアカシア	ナマケモノ	ユキヒョウ	タヌキ	猛禽類	スナメリ	ダンゴムシ
			食べられる山菜	シャチ	柴犬	クワガタ	シャチ	ダンゴウオ
			イタヤカエデ	コウテイペンギン	ゴジュウカラ	離島の固有種		哺乳類全般
				ミスダコ	アオバト			
				スズムシ シラカンバ				

# 内定者からの情報

志望動機や試験対策・官庁訪問等の体験について内定者が書きました。

## Aさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別・年齢】 修士課程2年・男・24歳

【専攻科目】 景観生態学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、造園計画（自然公園）、造園計画（都市公園）

【二次専門選択科目】 自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】 3回（学内1回、本省開催2回）

【併願先】 民間企業（木材商社）、国家一般職

### (2)志望動機

物心ついたところから自然の中で遊んでいて、生き物と触れ合う機会が多かったです。その中で中学生の時の国立公園の利用をきっかけに日本の素晴らしい自然を知り、それらを多くの人に知ってもらうためにも、国立公園をはじめとした自然の保護と利用について考えるようになりました。そこでより多くの人々が日本の自然に関わることができる社会の仕組みづくりを通して、様々な自然の恩恵を受けながら豊かな自然を後世に残していきたいと考え、レンジャーを志望するに至りました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

過去問を解き、時間との勝負になることが分かったので、少ない時間で確実に点数を取ることができる問題を選んで解くという作戦で挑むことにしました。特に数的推理、判断推理は時間的に全て解くことが難しいので、過去問で解き方を勉強しつつ自分が得意な問題を見つけ、本番ではなるべく解きやすい、得意な問題を解くことを意識しました。自分の強み



を理解し解ける問題をしっかりと対策することが良いと思います。

#### 【1次：専門多肢選択式試験】

1次試験対策では主にこちらに重点を置きました。過去5年分の過去問を見ながら法律、制度に関連する内容をノートにまとめていきました。特に出題された問題の選択肢をしっかりと読み、誤りの箇所を確認すると理解が深まるので、一つ一つの問題を丁寧に解いていくことをおすすめします。

#### 【2次：専門記述式試験】

1次試験対策の延長で、頭の中で文章にしながらか暗記をしていくことを意識しました。本番はかなり時間があるので、じっくりと解答をつくり添削する、してもらおうといった勉強方法も効果的だと思います。

#### 【2次：人物試験】

特別な準備はしませんでした。民間を受けていたこともあり面接はそこまで緊張せずに済みました。普段からゼミ等でしっかりと話を聞き、自分の意見を発言できるようにしておくことが重要だと思います。

#### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

自分の環境省への志望の原点は国立公園にあったので、訪問したかった国立公園を訪れました。そこでの経験は勉強や面接でも大いに役に立ったので、興味のある国立公園に行くことはおすすめします。国立公園訪問の際、現地のレンジャーの方を紹介してもらいお話を聞くこともできたので、そのように職員の話聞き現場のリアルを聞くこともなお良いと思います。

また就活だけになりすぎないことも意識しました。特に学生最後の年になるので、やり残したことがないように、悔いのないように研究活動、私生活を送ることも大事だと思います。

#### ●官庁訪問

第1クール初日に官庁訪問をしました。なるべく自然な受け答えになるよう考えすぎずに答えることを意識しました。そのために、志望カードを書く時から想定質問を考えて答えられるように練習していたことが非常に効果的であったと思います。

#### ●アドバイス・メッセージ

試験、面接で緊張せずに集中して行うことが一番自分の力を出せることだと信じて取り組んできました。ただどうしても本番は緊張してしまうものです。そこで緊張しないように、と考えるのではなく、自分の努力を本番では自信に変えてください。そうすると自然と緊張

が解けてくると思います。そのためにも試験勉強、面接対策は自分がやり切ったと胸を張って言えるまで取り組んでみてください。

## Bさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】修士課程修了見込

【学年・性別・年齢】修士課程2年・男・25歳

【専攻科目】森林科学

【試験区分】森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】森林環境科学、造園計画（自然公園）、造園計画（都市公園）

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】1回（本省開催）

【併願先】地方上級（林業）、国家一般職

### (2)志望動機

修士研究の中で、地元の方々の行政の政策に対する印象を知り、自然公園の利用を巡る開発側と地元や専門家との協議に触れた経験から、地域性自然公園の保全に関し、地元の協力を得て利用と保護を両立させる重要さと困難さを実感しました。これを背景に、多くの人々が日本の自然環境の保護と利用の両立等の視点から人と自然の関わり方を考え、実践することが不可欠と考えました。そして、その場づくりに行政の立場から貢献したいと考え、自然系職員を志望しました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

一度過去問を解いてみて時間に余裕がないことが分かったので、以降も何度も過去問を解いて問題に慣れるようにしました。数的推理、判断推理に関しては新スーパー過去問ゼミを用いて、少しでも早く解けるようにしました。

##### 【1次：専門多肢選択式試験】

まず過去問を解いてみてどのような傾向で出題されているのかを把握しました。広く深く出題されるので、誤りの選択肢の何が間違っているのかを追うことも効率よく勉強できる方法になるのではと思います。1次試験ではこちらの方が得点の配分が高いため、時間がなければこちらの方を優先した方が良いと思います。

### 【2次：専門記述式試験】

一次試験の延長と考えました。勉強方法は変えていませんが、本番はかなり時間があることから、ゆっくりでもいいから文章として解答をまとめる練習は何度か行うようにしました。

### 【2次：人物試験】

事前面談、官庁訪問を終えた後での面接でしたので、特に準備はしませんでした。聞かれる内容は事前に提出する面接カードに沿ったものでした。

### 【2次：政策課題討議試験】

試験内容の変更に伴い実施されませんでした。

#### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

修士研究や部活と平行していたので、上手く時間を配分できるように心がけました。結果が気になるときは、落ちたらまた来年やれば良いと思って落ち着くようにしました。

#### ●官庁訪問

第1クール初日に訪問しました。訪問カードは事前面談の際と同じ内容のものを提出しました。事前面談で一度志望動機などについて話す機会があったので、特に準備することなく臨みました。

#### ●アドバイス・メッセージ

大学受験の時のように試験勉強一本でできるわけではないので、合格点を越えられるように効率よく勉強することも大事なのかなと思います。自分は試験が延期になって勉強がダレた部分があるので、試験日から逆算して必要な日にちだけ準備にあてれば良いと思います。面接に関しては、誰でも良いので一度面接練習をしてもらおうと自分の話すときのクセなどが分かるのでおすすめです。視線が泳いだり早口になる人、想定質問を考えると緊張してしまう人など、人によってそれぞれなので、一度練習して自分を理解しておく対策しやすいのではないのでしょうか。

レンジャーを目指す上で現役のレンジャーの方や国立公園への訪問を行い志望動機を詰めることをやっておけばと感じましたので、時間に余裕のある方は一度は訪れておくことをおすすめします。

## Cさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別・年齢】 修士2年・男・24歳

【専攻科目】 植物生理生態学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一時専門選択科目】 森林環境科学・森林資源科学・森林生物生産科学

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会】 サマートライアル、合同説明会、Web説明会

### (2)志望動機

幼少期の頃から山や海など自然の中で遊ぶ機会が多く、大学では植物生態学を専攻して、野山を駆け回って調査を行ってきました。このような経験が「ゆたかな日本の自然を守るために働きたい」という思いのルーツになっています。レンジャーを本格的に目指すようになったのは大学4年生の春です。研究室の先生とフィールド調査へ向かう車の中で自分の進路先について話していた際に、環境省自然系の存在を初めて知り、レンジャーを勧められました。その後、環境コンサルや地方自治体など自分なりに環境保全に携わる仕事について調べましたが、自分が最もやりたいことは国立公園や野生生物の管理であると思い、レンジャーを志望しました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

数的処理・判断推理は設問数が多いため、この2点のみ問題集を利用して勉強しました。試験当日も文章理解にはあまり時間を割かず、確実に取れそうな数的処理・判断推理の問題に時間を回しました。時事については、某動画サイトに時事対策の動画が載っていたため、それを利用しました。

##### 【1次：専門多肢選択試験】

最初は問題内容をほとんど理解できず、1から独学で勉強を始めなければなりません。勉強方法としては、まず過去問を解き、分からない内容を林業白書や実務必携、インターネットから調べてノートにまとめる作業を繰り返しました。正答だけでなく、誤答の選

択肢についてもどこが間違っているのかノートにまとめました。あまり古い過去問では直近のデータが反映されていないと考え、総合職の過去問と一般職の林業区分の問題を3年分ずつ解きました。林業にあまり馴染みのない方は、映画「WOODJOB!」を見るといいと思います。林業のイメージが湧いてくるし、勉強の息抜きにもなるのでおすすめです。

#### 【2次：専門記述式試験】

2次試験については1次試験の合否発表後に勉強を始めました。1次試験で勉強した内容がそのまま2次の対策になるため、十分間に合うと思います。1次試験の勉強時から、理解した内容を文章化できるように心がけていました。

#### 【2次：人物試験】

大学のキャリア支援センターを利用して、面接練習やアドバイスをもらいました。面接カードを早めにつけておいて、想定質問をリスト化しておくと思います。また、私は事前に民間企業の面接をいくつか受けており、それが自信につながりました。面接は場慣れしておくことが最も大切だと思います。

#### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

私はコロナ渦での就活のため人と会話をする機会が減り、自宅で勉強ばかりしていると精神的に参ってしまうため、近所を散歩したり、料理をしたり、筋トレするなど息抜きをしていました。就職活動はとても長い道のりですので、程よく息抜きをすることが大切です。

#### ●官庁訪問

令和2年度の官庁訪問は第1クールがWeb面談、第2クールが環境省本省での面接でした。私は地方在住のため、東京まで足を運ぶ頻度が減り、良かったと思います。面接カードは他の人にチェックしてもらって、何度も作り直しをしました。その際、就活を経験したことのある社会人の人に見てもらいましょう。面接当日は必ず緊張してしまうので、あらかじめリラックスできる方法を考えておくと思います。私は面接前に環境省隣の日比谷公園を散歩して、気持ちを落ち着かせていました。

レンジャーになるうえで、官庁訪問が最大の関門だと思っています。とはいえ環境省自然系の面接ではあまり難しい質問はされず、面接官の方々もいい人ばかりだと感じました。面接カードをよく練って作成し、しっかりと対策をすれば大丈夫です！

#### ●アドバイス、メッセージ

国家公務員総合職と聞くと、エリート官僚のイメージが強く、机にかじりついて必死に勉強し、ごく一部の人だけが合格できると思いがちですが、そんなことはありません。十分に試験・面接の対策をすれば、誰でも合格への道のりが見えてくると思います。もちろん試験

に合格するためにはある程度の勉強時間を確保する必要がありますが、コミュニケーション能力や、たくさん自然の中で遊んで自然を愛することも、レンジャーになるうえで必要な素質だと思います。

## Dさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】博士後期課程中退

【学年・性別・年齢】博士後期1年・男性・27歳

【専攻科目】生物多様性・自然保護

【試験区分】森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】業務説明会、WEB少人数相談会、計7回

【併願先】研究職

### (2)志望動機

子どものころから自然が好きで、今でも野生動物を目にするたびに大きな感動があります。学部1年次にE.O.ウィルソンの『生命の多様性』を初めて読んだ時は、格別の共感を覚えました。その頃から私は本格的に自然保護関連の仕事に就きたいと意識し始め、制度的、自然科学（生態学）的観点で理解を深めることとなります。しかし、考えていくうちに科学的に正しいことのみを焦点を当ててシステムを作ると、持続可能な保全が達成されないことを実感しました。そこに欠けていたのは、地域の人達であり、例えばマタギの方や海女さんの伝統的な生業が、地域の自然環境と共生するように、地域の共感と信頼（非市場的な領域）に基づいて初めて、持続可能な保全が実現されるのだと思い至りました。そしてまさにこれが次世代に残すべき自然共生社会であると思います。このような現場の最前線に立って聞く声を、中長期的で、統合的な政策につなげたい、国際社会に発信したいという思いから、環境省自然系を志望しました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

過去問を自分なりに分析して、一通り解きました。得意な国語・英語は確実に取れるようにし、苦手な数的処理は、解けそうな問題を見極めて、時間をかけて解答できるようにしました。数的処理は全問正解を目指すのではなく、半分の得点を見込んでいたので、本番も慌てずに取り組むことができたように思います。（実際の数的処理の正答数は半分を下回ってしまったので、必ずしも良い作戦だったとは言い切れませんが。）



### 【1次：専門多肢選択式試験, 2次：専門記述式試験】

まずは過去問分析。試験のおおよその範囲（どこまで聞かれるか）を把握してから、対策にあたりました。試験勉強一辺倒で行き詰まった時には、実際の政策をHPで見、私もこのような仕事に携わりたいと、モチベーションを上げていました。（とりわけ「生物多様性国家戦略」は何度も読み返したものです。）ここで目にする情報は試験で役立つ場合も多く、（特に二次専門記述において「自然環境・公園緑地に関する基礎」を選択する場合）おすすめできます。それから、知識を拾うだけでなく、目下の状況、対する政策とその変遷というように、その流れに考えを巡らせておくことが、記述式試験にプラスに働いたと思います。

### 【2次：人物試験】

民間を受けていなかったこともあり、面接における暗黙のルールというものが当初さっぱりでした。（例えば、結論から端的に答えるべきところ、練習したての頃は、多くの情報を盛り込んで、できる限り正確に言おうとしていたことなどです。）経験値の差を縮めるべく、就職活動の荒波を乗り越えた友人、先輩を頼って、面接練習に付き合ってもらいました。人によってアドバイスは様々で、新たな気づきを与えてくれます。色々なタイプの方にお願ひするのが、自分らしさを引き出すのに有効であるように感じました。

#### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

私の場合、国家公務員試験は昨年度に通過していました。したがって、2019年秋冬は博士課程進学準備と、年明け以降は大学での研究とアルバイトをしながら、官庁訪問対策として面接の練習をしていました。コロナ禍以前、2019年夏には北海道に6つある国立公園を訪れ、現役のレンジャーの方々にお話を伺いました。この経験によって、「人と人、人と自然との関わりを大切にする」ということを肌で感じる事ができたように思います。「保護と利用」を二項対立的にではなく、相互補完的に捉える視点を獲得したこともまた、重要な発想の転換でした。

#### ●官庁訪問

第1クール初日に訪問しました。今年度は、受験者ごとに訪問時間が決まっており、他の受験者と会うことはありませんでした。よって、他の受験者と話すことで気が紛れて緊張が解ける、というような場はなかったものの、一人で日比谷公園をうろうろすることで集中力を高められたので、むしろ良かったのかもしれない。Webで行われた事前面談会の際も同様で、直前まで、近所の森の中を歩いていました。ところで、私は、心や頭がすっきりと冴えていても、緊張すると声が震えてしまうことがあります。そして、実際に本番もそうになりました。しかし、面接官の方々がしっかりと話を聞いてくださったので、何とか這い上がるように持ち直し、自分の言葉で質問に答えられたように思います。私と同様の悩みを抱え

ている方がいらっしゃったら、できるだけ本番に似た状況下での経験値を増やしておく  
良いでしょう。

●アドバイス・メッセージ

・「自己分析」は就職活動におけるキーワードであり、これからの人生の軸をつくる重要な  
プロセスであると思います。自身の過去を詳細に客観視することで、例えば、幼少期の小さ  
な体験が今の自分と繋がっているのでは、と気づくことができました。助手席に揺られてい  
るときに、ニホンカモシカが突然現れて目が合ったこと。まばゆい雪が動いたかと思えば、  
ライチョウであったこと。そういった発見をしていくのは、意外と面白いものです。

・現役のレンジャーの方からお話を伺うことで、パンフレットや説明会からだけでは見えて  
こなかった現場の空気感を知ることができました。頭の中に描いている業務とのずれを解  
消するためにも、こういった機会を大切にすると良いと思います。

・専門が生態学ではなくても、環境省自然系を志望されている方もいらっしゃると思いま  
す。私もその一人でした。というのも、学部時代は外国語を専門にしておりました。しっか  
りと生態学を学んだのは大学院からということになりますし、まして林業の知識はほとん  
どない状態からのスタートでした。専門分野に違いがあっても、道は開けています。まずは  
思い切って挑戦してみることで、見えてくるものがあるはずです。

長々とした文章をお読みいただき、ありがとうございました。

皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

## Eさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別・年齢】 修士課程2年・女・24歳

【専攻科目】 動物生態学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】 インターンシップ（修士1年・夏）

【併願先】 林野庁、都道府県庁（林業職）、環境コンサル

### (2)志望動機

私は幼い頃から生き物や自然に関わる仕事に就きたいと考えていました。

そんな中、インターンシップを通して環境省が実施する様々な事業が地球環境を守り、これを基盤として成り立っている現在・未来人間社会を支え、守ることに繋がると感じました。

また、私の出身地は三陸復興国立公園に含まれており、被災した地元が国立公園設立によって魅力的に整備され活気のある場所へと変化したことに感動し、国立公園が自然環境だけでなく人間社会にも良い影響を与えることができると感じました。

以上の体験から志望しました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

約1年前に勉強を開始し、テキストは主に『新スーパー過去問ゼミ』、『速攻の時事』、過去問を用いました。出題数が多い科目（数的処理や判断推理など）や得意な科目などを合わせて合格点以上となるように選び、それ以外の科目は勉強しませんでした。特に数的処理と判断推理は毎日問題を解くように心がけました。

時事は、『速攻の時事』で挙げられているテーマの簡単な解説動画を視聴し自分なりに理解してから暗記していました。数的処理や判断推理などの早く解くポイントを解説している動画もあるので参考にしていました。

##### 【1次：専門多肢選択式試験 2次：専門記述式試験】

残念ながら学んだことがありませんでしたので独学での挑戦になりました。過去問は総合職、一般職両方の解説を作成しました。解説の内容を繰り返し読んで暗記していました。二次試験対策は、一次試験が終わってから始めました。過去問から傾向をまとめ出題されそうな話題に対する、背景、現状、課題と対策を記述できるように短期間でしたので集中して勉強しました（個人的にはもう少し早めに始めたほうがいいと思いました）。

## 【2次：人物試験】

面接カードを見て自分だったらどのような質問をするか考えながら質問リストを作成し、回答を用意してこれを話せるように準備しました。基本的には面接カードに沿った質問内容でしたので、十分対策できていたように思います。

### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

朝は計算系の科目の勉強、日中は研究、夜は暗記系科目の勉強のようなサイクルで過ごしました。集中力が下がるので睡眠時間は削らないようにしていました。私は場所を変えると集中力が上がるタイプでしたので、カフェを利用したり自分の部屋の家具の配置を飽きたら変えたりしていました。また、友人と勉強すると集中できましたので zoom 等を利用して新型コロナウイルスの影響で会えない友人と一緒に勉強したりしました。

### ●官庁訪問

質問リストを作成し、これに対する回答を作成しました。深掘されてもしっかりと答えられるように用意していました(経験を通して何を学び、どのように仕事に活かせるのかを答えられるようにしていました)。面接練習は鏡を見ながらやりました(表情が硬くなりやすいため確認していた)。

### ●アドバイス・メッセージ

やって良かったなと思うこと

- ・勉強を早めに始めたこと（成果が出るまで時間がかかった）
- ・採用試験を事前にいくつか受けたこと（実戦練習ができた）
- ・課外活動や短期留学に参加したこと（学びが多く、面接時の引き出しも増えた）
- ・インターンシップ（業務体験ができ、情報がたくさん得られた）
- ・自己分析をして、就活や選択の方針を決めていたこと（長期戦になるのでモチベーションを保つために）

私は高校から学部卒業の歳まで高専（工学・化学）で過ごしました。他分野から挑戦しようと考えている方は試験に関して不安かと思いますが、例年の「内定者の声」を読む限り内定者の方は多様な背景を持っている印象を受けますし自然が好きな方には誰にでもチャンスはあるのかなと思います。他分野から挑戦している分、他の方と異なる自身の経験（私で

あればモノづくりの経験など)をどのように業務へ活かせるのかイメージし分かりやすく伝えることが重要かと思います。そのためにも、勉強に加えてインターンシップや説明会等へ参加し、情報収集を行うとより良いかもしれません。

皆様の参考になれば幸いです。読んでいただきありがとうございました。

## Fさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別・年齢】 修士課程2年・男・24歳

【専攻科目】 森林科学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】 WEB説明会、WEB少人数相談会

【併願先】 建設コンサルタント、製紙・パルプメーカー、木材専門商社、林野庁

### (2)志望動機

幼少期の頃から自然が好きで、休暇には家族で自然豊かな地域に旅行し、登山をしたり川遊びをしたり生き物を探したりしていました。そして、旅行した先々で多数の動植物が絶滅の危機に瀕しているという現実を目の当たりにし、次第に将来は自然環境保全に携わりたいという気持ちが強まりました。

環境保全に関わる仕事について知見を深めるべく、修士一年の夏、北海道サロベツで環境保全・教育活動を行っているNPOのインターンシップに参加しました。二週間の期間の中で、サロベツの湿原保全と農業の両立という目標のために奮闘する様々な方とお会いし刺激を受けました。インターンシップを通して、環境保全や自然再生事業は地元の人々が協力し合って成しえるものだと実感したとともに、その中で中心的役割を担い、最前線で活躍する自然保護官へ強い憧れを抱きました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

過去問を用いて数的処理・判断推理の演習を行いました。数的処理・判断推理は全体の半分を占める上に、時間を要する問題も多いため、ここでどれだけ点を取れるかが結果に直結すると思います。過去問を繰り返し解くことを通して、問題の傾向や解き方が身につき、得点力が上がりました。

また、時事問題やその他の知識問題の範囲は、全体に占める割合が低くコスパが悪いと思ったので、特に対策はせず節約した時間を専門科目の対策に割きました。試験直前には、過

去問を見て、全体の時間配分を確認しました。

#### 【1次：専門多肢選択式試験 2次：専門記述式試験】

森林・林業白書の内容を丁寧にノートにまとめました。ノートには適宜、大学の講義資料等から情報を補足しました。そして、作成したノートを頻繁に見ることを心掛け、内容を整理しながら頭に入れました。この際、語句の暗記ではなく、全体のつながりや因果関係、背景の理解を意識したように思います。

また、地学分野の対策には、高校生向けの参考書を用いました。机に向かって勉強するというよりは、隙間時間にベッドで参考書をぼーっと眺めていました。宇宙、地層、地球の歴史など内容が興味深く、試験勉強の気晴らしになりました。

過去問演習は試験二週間前ごろから始めました。間違えた問題は、ノートを確認したりインターネットで調べて解決しました。一次試験も二次試験も基本的に、自作ノートと過去問で対策をしました。

#### 【2次：人物試験】

民間就活、事前面談、官庁訪問の後だったため、落ち着いて面接に臨むことができました。

#### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

4月から6月は、基本的に家で民間就活と公務員試験対策をしていたと思います。コロナの影響で試験や面接が延期になり先行きが不透明な中で、モチベーションを高めるために、環境省 HP の採用パンフレットを読んだり、以前に OG 訪問した際に伺ったレンジャーの方の話を振り返ったりしていました。また、休憩時には YouTube で沢登りや登山の動画を見て、山に行きたい気持ちを発散していました。コロナ自粛中は、特に健康を意識して生活していたように思います。

#### ●官庁訪問

本番の直前に、民間就活の面接で頻繁に聞かれた志望動機、自己 PR、ガクチカについては、話す内容を再確認しました。面接当日は、志望の強さを自分のこれまでの経験にリンクさせて伝えるように心がけました。緊張で何度も噛みましたが、面接官の方が熱心に耳を傾けてくださったおかげで、伝えたいことを伝えることができましたと思います。

#### ●アドバイス・メッセージ

今振り返ってみると、就職活動は自分に真剣に向き合う機会になったと思います。ES を書いたり、面接で自分について話すためには、自分のこれまでの経験や選択を顧みて、自分が本当に何をしたいのかをじっくりと考えることが必要です。この就活というタイミングで、一度立ち止まって自分の意志を再確認してみるのがいいのではないかと思います。

最後まで読んでくださりありがとうございました。皆様が納得のいく就職活動ができることを祈っています。その際、ここに書いた情報が少しでもお役に立てれば幸いです。



## Gさん

### (1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程修了見込

【学年・性別・年齢】 修士課程2年・女・25歳

【専攻科目】 野生動物学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】 自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】 オンラインで4回（自然系採用WEB説明会、自然系採用WEB説明会（施設整備編）、自然系採用WEB少人数相談会、WEBセミナー環境経済課長講演）、インターンシップ（2週間）

【併願先】 地方公務員（畜産職）、食品メーカー

### (2)志望動機

様々な人に働きかけながら生物多様性の保全を推進したいと考えたからです。地方の自然が豊かな場所で育ち、物心がついた時には自然や生物が好きで、希少種保全などに携わりたいと漠然と考えていました。数年前に地元の湿地がラムサール条約湿地に登録され、その登録前後の変化を間近で見ることがありました。インターンシップにも参加し、国として制度や指定を進めることが、地元住民の理解を促したり自然環境の保全と適切な利用を進めたりするために重要な役割を果たしていることを実感しました。そして、様々な声に耳を傾け、協力関係を築きながら生物多様性の保全に貢献したいと考え、自然系職員を目指そうと考えました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

前年度の問題を解いたところ、基準点ギリギリの点数しか取れずかなり焦りました。国家総合職過去問500と新スーパー過去問ゼミを使って数的処理と判断推理の問題を重点的に対策しました。スーパー過去問ゼミの必修問題と頻出度の高い実戦問題を2周して、落としてはいけない問題を確実に解けるようにしました。時間内で全ての問題を解くことは難しいと判断したため、過去問5年分を使って本番通りに解く練習をしました。

### 【1次：専門多肢選択式試験 2次：専門記述式試験】

森林・自然環境分野は専門外だったため、重点的に時間を割いて勉強しました。大学で過去問を入手し、1年分解いては白書と実務必携を見ながら確認する、という作業を繰り返しました。自然公園の分野は、自然公園の手引き（自然公園財団編）を使って知識を得ました。5～6年分解くと、頻出の分野や問題の傾向がわかってきたので、その部分を重点的に覚えるようにしました。

### 【2次：人物試験】

サークル活動などで年の離れた社会人と話す経験が多くあり、人と話すことは好きだったため、特別な対策はしていません。民間就活をしていたので、その経験を活かして面接カードの作成と面接に臨みました。多くの民間企業の面接で面接官に「緊張しているように見えないね」と言われるほど、毎回面接はリラックスして受けていました。無理に自分を作って採用されたとしても自然体で働くことは難しいと思ったため、自分らしく話すことを心がけていました。

### 【2次：政策課題討議試験】

コロナの影響で記述式の筆記試験のみの試験でした。基本的な知識を問う一次試験に比べて、二次試験は具体的な対策や事例について説明する問題もあります。過去問を5年分解き、出題傾向を把握して、環境省のホームページやパンフレットに目を通しました。国立公園での取り組みや、環境行政のトレンドなどを調べて、背景や流れが説明できるように記述する練習をしました。

### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

新型コロナウイルスの影響でフィールドに行けず、研究が進んでいなかったため、二次試験が終わってすぐ調査地に行き、研究を再開させました。終わったことは気にしないようにして、試験の結果が出た後どう動くか考えながら、調査をしていました。

### ●官庁訪問

一次試験と二次試験の間に官庁訪問があるという変則的なスケジュールでした。一次試験の合格を確認してすぐに官庁訪問の申し込みをしました。第一クール初日に本省で面接を受けました。事前面談会の面談者カードと同じ内容で訪問カードを作成しました。志望動機や学生時代の取り組み、やりたいことなどを幅広く質問され、自然体で答えるように心がけました。新型コロナウイルスの影響で他の受験者と接触しないようになっていて、交流できなかったのが残念でした。

## ●アドバイス・メッセージ

自然系職員になりたい！と思ったのが修士1回生の春だったため、そこからすぐに動き出したことが内定に繋がったと思います。大学を通じてインターンシップに行かせてもらったり、職員さんにお話を伺ったりしたことで、働く姿を具体的にイメージすることができ、面接で自信を持って話すことができました。

森林・自然環境の知識がゼロの状態では不安を感じながら勉強を始めましたが、先輩方の「内定者の声」の中にも専門外から受験した方が毎年いて、とりあえず頑張ってみようと思いました。実際勉強をやってみて、もちろん専門性が高く難しい部分もあるけれど、学問としての知識と、行政で働くときに必要な知識は違う部分もあります。森林や自然環境が経済や社会的背景とどのように結びつき、そして行政がどのように働きかけているのか、その動きを学ぶことを純粋に楽しみながら勉強を続けました。

新型コロナウイルスの影響で試験日程の延期が続き、友人の多くが民間就活で内定を得ていく中で、モチベーションを維持するのは本当に大変でした。そんな状況でも、インターンシップでの経験や職員さんの雰囲気、環境行政に携わりたいという気持ちなど、いろんな側面から考えて自然系職員になりたいという気持ちは変わらず、諦めたら後悔しか残らないぞ、という強い気持ちを持って試験勉強を続けました。部屋のトイレの壁に国立公園のポスターを貼り、心が折れそうになっても日々「私はここで働くんだ」と言い聞かせていました。

受験を迷っている方は、最初から諦めるのではなく、一度挑戦してみることをお勧めします。専門が違ってても、勉強をして試験に合格することは十分可能です。環境行政は本当に幅広く、学生時代に頑張った経験が必ずどこかで役立つ場面があるはずです。自身の経験を振り返り、自然系職員の仕事に通じる部分を見つけ、将来の働く姿をイメージしながら勉強を続ければ、きっと合格できると思います。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。頑張ってください！

## Hさん

### (1)プロフィール・試験区分等

- 【最終学歴】 修士課程修了見込
- 【学年・性別・年齢】 修士課程2年・女・24歳
- 【専攻科目】 生態遺伝学
- 【試験区分】 森林・自然環境（院卒）
- 【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）
- 【二次専門選択科目】 自然環境・公園緑地に関する基礎
- 【参加した説明会・回数】 5回（合同説明会、環境省WEB説明会など）
- 【併願先】 北海道庁、独立行政法人、民間企業（環境事業関連を中心に）

### (2)志望動機

幼い頃から生き物が好きで大学でも生物学を専攻しましたが、大学の講義で聞いた「人為的影響によって生物の絶滅スピードが自然状態に比べ何千倍にも跳ね上がっている」という話をきっかけに、生物や自然環境の現状と将来に危機感を持つようになりました。また、趣味である旅行で様々な場所に訪れ、感動的な自然風景や野生生物の姿を目の当たりにする中で、この風景をこれから先ずっと長く残していきたいと強く感じました。これらの経験から、自然環境や生物多様性の保全に関わる仕事がしたいと考えるようになり、レンジャーという仕事にたどり着きました。就職活動をする中で、民間企業も含め様々な立場から自然・生物保全に携われる仕事について考えてみましたが、自分の適性や思いと合致するのはレンジャーだという思いに最終的に至りました。

### (3)体験記

#### ●勉強方法

##### 【1次：基礎能力試験】

主に対策を行ったのは数的処理と文章理解、時事のみです。

- ・数的処理（試験実施年の前年12月頃から対策）

大学で公務員講座に通っていたため、主にそこで配布された問題集（様々な過去問が分野ごとにまとめられている）を利用しました。志望先で頻出とされる分野や、自分が苦手とする分野を中心に対策すべき問題を抽出し、全ての問題が自分で完全に理解して解けるようになるまで繰り返し解きました。

- ・文章理解（試験実施年の2月頃から対策）

まず過去問を何問か解き自分の苦手分野をはっきりさせ、苦手な分野については集中的に対策を行いました。試験一ヶ月前頃からは、過去問がまとめられている問題集を利用し、実際の文章理解の問題構成と同じ組み合わせで解く練習をしました。その際、実際の試験でどのくらい文章理解に時間を配分するかを決め、その時間内で解けるようにトレーニングしていました。

・時事（試験実施年の2月頃から対策）

「速攻の時事」を一日一テーマ勉強し、次の日に前日勉強したテーマの問題を解く、ということを繰り返しました。

### 【1次：専門多肢選択式試験 2次：専門記述式試験】

ほとんど専門外の分野だったため、試験前年の10月頃から少しずつ勉強を始めました。

色々勉強方法を調べる中で、過去問を中心に勉強するのが基本だとわかり、まずは過去問を五年分取り寄せどのような問題が出るかを把握するところから始めました。過去問を一間ずつノートに貼り、「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」を中心に調べながら過去問に関連する分野をまとめていきました。その際、重要項目は赤シートで隠せるようにまとめ、過去問を全て解き終わった後は、そのまとめノートを繰り返し解くことで知識を定着させました。

記述試験対策は一次試験が終わったところから始めました。こちら初めに過去問に通り目を通し、ある程度頻出の分野があるようだったので、その分野を中心に一次試験よりも少し詳しく調べたり理解するようにしながら、重要項目をノートにまとめました。このときは、一次試験のように覚えるだけの勉強ではなく、理解したことを文章にできるようにすることを意識しながらまとめていきました。

### 【2次：人物試験】

すでに民間就活で面接を受けてある程度慣れていたので、特別対策は行いませんでした。普通の民間等の面接と違って、落とすか通すかを決める面接では無いと思ったので、必要以上に緊張せず普段の会話をするように、自分の考えをなるべく相手にわかりやすく素直に伝えることを心掛けました。

### 【2次：政策課題討議試験】

院卒区分なので今年はコロナの影響により受験していません。

### ●内定までの過ごし方、心がけたこと

第一に、一つ一つの経験が無駄にしないように過ごすことを心掛けました。例えば、民間の面接や説明会などで得たこと、感じたことをレンジャーとして働いていく上でどう活かせるかを考えてみたり、出かけた先での経験など一見関係無いことでも、もし自分がレンジ

ヤーだったらと思って問題意識を持ったりすることで、面接などで話せる話題も広げられたかなと思います。

もう一つとしては、就活自体から自分を切り離す時間を作ることです。先に述べたことと少し矛盾するかもしれないですが、常に就活のことばかり考えていたり、目の前のやるべきことに追われすぎていると、就活をする中での本来の目的を見失いかける 때가多々ありました。なので、たまに気分転換に興味をやったり散歩に出てみたりすることで、頭が冷静になったり考えが整理されたりするので、自分はなぜレンジャーを目指しているのか、という初心の部分に立ち返ることに役立ったと思います。

### ●官庁訪問

ここまで来たら素直に思いを伝えるだけ、レンジャーとして働けるかどうかはあちら側が判断してくれる、という思いで挑みました。面接官の職員の方々も話しやすい雰囲気を作ってくくださったので、緊張しすぎず話すことができました。

また、民間就活なども行っていたので、自然や生物の保全に関わる上で、なぜ国家公務員という立場なのか、なぜ環境省なのかという点を言語化できるように、自分の思いや考えを整理することも心掛けました。

官庁訪問は第1クールの初日に併願先の地方公務員の面接が被ってしまい二日目に訪問しました。不利になるのではと思い不安もありましたが、併願先も悔いなく受けきることで心残りなくレンジャーの道を選択することができ、結果的に良かったと思っています。

### ●アドバイス・メッセージ

アドバイスになるかはわかりませんが、自分の就職活動を振り返って良かった点と反省する点をお伝えしたいと思います。参考になれば幸いです。

まず自分の就活を通して良かったなと思える点は、あまり可能性を絞らずに色々な道に挑戦してみたことです。レンジャーを志望していたのは就活を始めた頃からずっとですが、生物や自然環境の保全への携わり方として他の手段を探してみたり、別で興味のある分野も含め色々な可能性を試してみました。もしレンジャーだけ、公務員だけ、を目指していたら知れなかったこと、感じられなかったことがたくさんあったと思いますし、それらは結果としてレンジャーの道を目指す上ですごく役立ったと感じます。

反省点としては、一つ一つの手応えや結果に一喜一憂しすぎたことです。就活を終えて感じたこととして、面接などの結果は必ずしも優劣によるのではなく、向き不向きによるところも大きいんだということです。もちろんその都度反省して次に活かすことも重要ですが、努力だけでは結果が得られない、というのも就活の真実だと思います。なので、思ったような結果が得られなくても、どうか必要以上に落ち込まずに前に進んで欲しいなと心から思います。

# 受験で使用した参考書一覧

※赤字のものは2人以上が利用していた参考書・資料です。

## ○基礎能力試験

- ・過去問（人事院、大学から入手）
- ・速攻の時事（実務教育出版）
- ・畑中敦子の数的推理 ベストプラス
- ・国家総合職 教養試験 過去問 500
- ・新スーパー過去問ゼミ（数的処理、判断推理、文章理解・資料解釈）

## ○専門試験

### <森林・自然環境区分>

- ・過去問（人事院、大学から入手）
- ・森林・林業白書
- ・環境白書
- ・環境省、林野庁、国交省 HP
- ・森林林業実務必携
- ・青木の地学基礎をはじめからていねいに(東進ボックス)
- ・高校生向け参考書（地学）
- ・自然公園の手引き
- ・森林土壌学概論、森林生態学(シリーズ現代の生態学)
- ・現代森林政策学
- ・国立公園論

### <生物・化学・薬学区分>

令和3年度は、入省予定者8名全員が森林・自然環境区分でした。例年は化学・生物・薬学区分からも採用されているようです。

# 内定者へのアンケート

## ① 環境省のイメージ

Q1 「環境省」という組織のイメージは？



Q2 職員の方々のイメージや印象に残っている言葉は？





## ② 内定までを振り返って…

### Q3 失敗談を教えてください！

#### 公務員試験で…

- ・試験前日に眠れず、試験当日に寝不足で挑んだこと
- ・専門記述試験の勉強を始めるのが遅かった

#### 事前面談会や官庁訪問で…

- ・他省庁のオンライン事前面談で、面談中に3回接続が切れ、結局電話面談になった
- ・事前面談会に参加できなかったこと
- ・官庁訪問時、緊張しすぎて、自分でも聞き取りづらい程に声が震えてしまった
- ・官庁訪問で東京に行く際の飛行機が遅延して冷や汗をかいた

#### 情報収集で…

- ・目指そうと考え始めた時期が遅く、さらにコロナ禍も重なり職員さんにお話を伺う機会が少なくなってしまった
- ・国立公園や現役のレンジャーの方への訪問をしなかったこと

### Q4 やっておいて良かった・やっておけば良かったということは？

#### やっておいて良かったこと

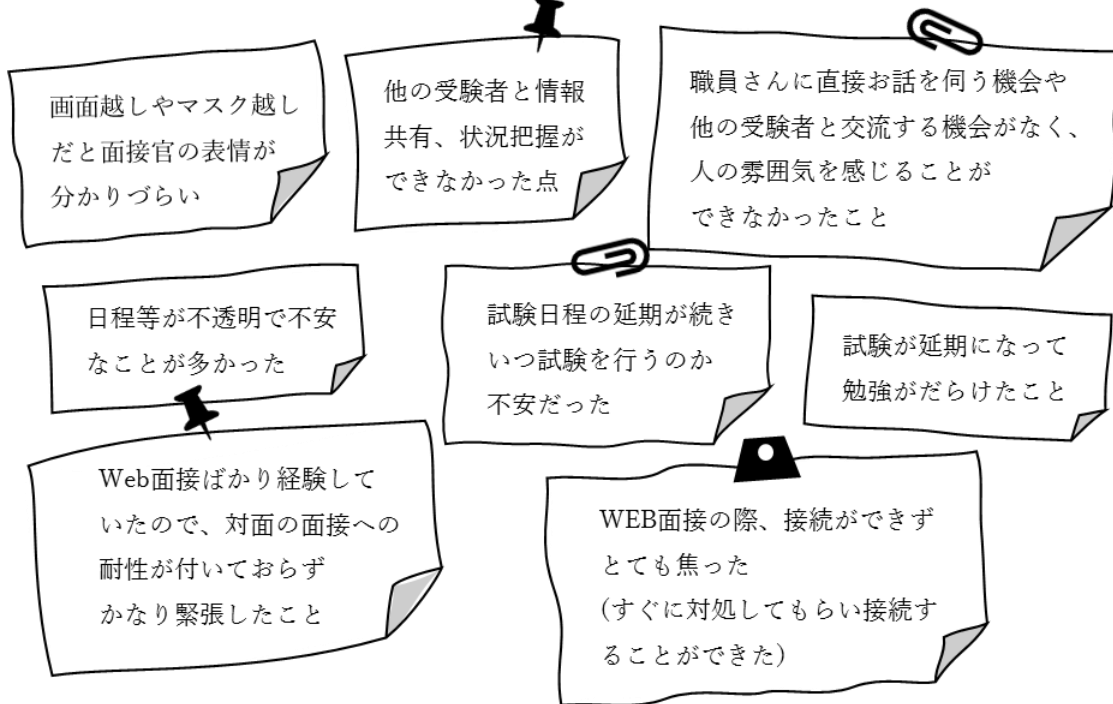
- 行ったことの無かった国立公園にいき、そこでレンジャーの方の話が聞けたこと
- 国立公園を訪問し(外出制限のかかる前)、レンジャーの方にお話を伺えたこと
- 日本各地を旅して、いろんな国立公園を訪れる(面接でネタになります)
- インターンシップに行ったことや、知り合いから環境省の方を紹介してもらいたくさんお話できたこと
- 旅行で国立公園に行くときなど、自分がここで働くことがあったら何が課題か、この風景の大切さをどう伝えるかなどを考えながら訪れたこと

#### やっておけば良かったこと

- 国立公園や現役のレンジャーの方への訪問
- 数的処理が苦手すぎたので、もっと前から克服しておけば、少しは余裕が持っていたのではないかと思う
- コロナの影響で急な試験日程変更が繰り返され、気が緩んだり焦ったりを繰り返して精神的にきつかったので、勉強を早めに始めておけばよかった

### ③ コロナ禍での就活を振り返って…

#### Q5 コロナ禍での就活で大変だったことは？



#### Q6 コロナ禍での就活で良かったことは？

